

## <金融史パネル>

### 第二次大戦後の国際通貨・金融システムと IMF

早稲田大学

矢後和彦

#### パネルの趣旨

本パネルの課題は第二次大戦後の国際通貨・金融システムの形成・展開・変質の過程を IMF の視点からあきらかにすることである。具体的には (1) 「ブレトンウッズ体制」と呼ばれる戦後国際通貨秩序がどのように形成され、その際に IMF がいかなる役割を果たしたか、(2) 欧米をはじめとする IMF 加盟国は各国通貨の交換性回復と経済復興に際して IMF とどのような関係を取りむすんだか、(3) 金・ドル交換停止から変動相場制にいたる過程に IMF と加盟諸国はどのように対処したか、という諸点を解明する。これらの課題に接近する際に、本パネルは IMF 所蔵の一次資料を中心としたアーカイブズに依拠した歴史研究の視点を堅持する。

以上の広範な論点を念頭に置きながらも、本パネルでは、これまで閑却されてきた IMF と国際金融市場との関係に焦点を置く。すなわち、IMF の政策に対して外債市場・引受市場・ユーロカレンシー市場等の市場機能の勃興・展開がどのように影響をあたえ、また IMF や加盟諸国がいかなる対応を講じたか、それはまたこれらの市場にどのような反作用をおよぼしたか、という諸点に実証的をしぼることとする。